

99.2.6-7 能登半島へ

行動記録リストに戻る e-mail は ma.ma@nifty.com まで

99.6-7 能登半島へ行って来ました。

去年は雪を見に青森に行ったのですが、今年はもう少し近場で雪の能登半島を目指しました。大阪から特急の雷鳥、能登鉄道の急行能登路号、能登鉄道の普通と乗り継ぎ輪島へ行きました。能登路号は女性がの運転していました。99.4.1から雇用機会均等法が改正され病院で看護の仕事をする人を募集するときは看護婦(士) _____(士)と言うように男性女性双方の職種を表示しないといけなくなります。その法則にあてはめると列車の運転をする女性を運転婦と言うことになるのかもかもしれませんが、運転士の方がなじみやすいですね。

金沢、和倉、七尾、輪島と北に向かっても雪はほとんど見られず、雪見は今年もできないようでした。地元の人に聞くと能登半島は山が低いため風は強いが雪は積もらないとのことでした。

今回は漆器も見ようと思い能登に来ました。漆器は陶器より作者の名前が出されていない様に思います。輪島屋の方に聞くと漆器は販売店(または)問屋が生地師、塗師、蒔絵師などを多く抱えてつくるので、職人の仕事というよりは店の仕事となるので作者の名前が表にでないとのこと。漆器を見るためにまず漆器店めぐりをします。

観光客はほとんど目に付かず、大きな漆器店でも客は2、3人で店の人の方が多いくらいでした。多くの店で色々な話を聞くことができ店めぐりを楽しむことができました。ただ、今回の出で立ちが、リュックを背負い山登り用の長い上着を着ていたので、一部の店では店員に奥へは入らないように止めることもありました。

店ばかり見ているとおもしろくないので、輪島漆芸美術館に行きました。古い漆器を見ようと思ったのですが、オフシーズンで全館現代の漆器の展覧会をしていたため、古いものは見るできませんでした。この美術館にも訪問者は2人で僕以



輪島市内の民家



輪島市内の海岸ぞいの道路

99.2.6-7 能登半島へ

行動記録リストに戻る e-mail は ma.ma@nifty.com まで

外のもう一人は僕が着いたときに帰ろうとしていて、本当に落ちついて鑑賞する事ができました。

喫茶店ですいぜんというお菓子を食べ、囲炉裏があるという民宿を予約し、喫茶店で薦められた料理屋名月で夕御飯を食べました。いろいろなものを出してもらいましたが、ぶりの頭を焼いたものと天然の海苔が特に印象的な味でした。

漁火という民宿へ向かい、囲炉裏で宿の主人を交えて話をしました。建物は築160年ぐらい経っているとのことなのですが、つやつやと乾く前に拭き取ることによってしてきれいでした。この地方の家は、柱や建具に拭き漆(漆を塗り乾く前に拭き取る漆の塗り方)を行うため痛みが少ないように思います。

輪島は朝市で有名なのですが、おみやげやがうるさいので、特に見たい店以外は寄らずにまた漆器店を何軒かまわりました。市中佑佳さんの市中屋本店で漆器の工程を見させてもらいました。

漆器はたくさん見たのですが、雪は十分に見ていないので、北陸の冬といえば雪の兼六園ということで兼六園に向かいました。兼六園にも雪は少なく、最も雪の名残があるのはぬかるんでいる足下でした。もう少し雪の積もっている兼六園を期待していたので少し残念でした。



少ししか雪がつもっていない兼六園



金沢市内の民家

金沢と言えば兼六園と想像していたのですが、地元の人に言わせると東茶屋街も良いとのことなのでさっそく向かいました。江戸時代から続く古い街並みなのですが、観光資源として整備されていて道路はきれいにタイルがひかれ地図や解説が各所にたっています。そしてきれいに作りなおした格子があちらこちらに見られ新築のツーバイフォーの家に出格子という家も並んでいます。この地区の中心である整備された江戸時代の街並みより、回りに残された昭和初期の街並みの方が古く見えるのがおもしろいのです。



東茶屋街の裏通り



浅野川沿いの夜景